

予算決算委員会会議録

1. 開催年月日

令和7年 9月22日 開会 10時00分 閉会 14時01分

2. 開催場所

全員協議会室

3. 出席委員名

松 本 周 平	多 賀 紀代子	山 田 幾久枝	柳 本 益 裕
木 尾 容 子	沖 久 教 人	妹 尾 文 彦	多 賀 信 祥
西 村 慎次郎	荒 木 謙 二	惣 台 己 吉	坊 野 公 治
上 野 安 是	西 田 久 志	大 滝 文 則	宮 地 俊 則
佐 藤 豊			

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 議 長 山 下 憲 雄

(2) 説明員

副 市 長	猪 原 慎太郎	総合政策部長	安 東 慎 吾
総務部長	藤 原 雅 彦	市民生活部長	久 安 伸 明
健康福祉部長	片 山 恭 一	建設経済部長	曾 根 剛
総合政策部参与	岩 本 展 到	総務部参与	片 井 啓 介
市民生活部次長	朝 原 博 幸	健康福祉部次長	中 山 浩 一
建設経済部次長	池 田 泰 之	総合政策部参与	西 本 勝 志
建設経済部参与	金 政 吉 伸	監査委員事務局長	谷 本 充 浩
会計管理者	小 谷 拓 也	企画振興課長	片 山 直 紀
プロジェクト推進室長	岡 田 千 稔	危機管理課長	梶 井 克 也
財 政 課 長	西 本 晴 雄	税 务 課 長	大 山 次 郎
市 民 課 長	藤 田 昌 巳	市民活動推進課長	岩 本 陽 子
芳 井 支 所 長	中 新 純 史	美 星 支 所 長	山 本 勝 已
子育て支援課長	大 塚 建	介護保険課長	森 川 正 康
健康医療課長	西 本 訓 子	甲南保育園長	坂 谷 佳 美
芳 井 保 育 園 長	三 宅 弘 美	商 工 課 長	亀 田 博 行

観光交流課長	藤岡 健二	農林課長	馬越 敏晴
福祉課長補佐	川合 進	企画振興課企画調整係長	三宅 崇之
市民課戸籍住民係長	藤井 宏美		
教育長	森川 孝一	教育次長	西村 直樹
教育総務課長	岡崎 直子	学校教育課長	米本 大樹
生涯学習課長	田中 稔		

(3) 事務局職員

事務局長 岡崎 祐一 事務局次長 藤井 隆史

6. 傍聴者

- (1) 一般 0名
- (2) 報道 1名

7. 発言の概要

委員長（惣台己吉君） 皆さん、おはようございます。

ただいまから予算決算委員会を開会いたします。

初めに、副市長の御挨拶をお願いします。

副市長（猪原慎太郎君） 皆さん、おはようございます。もうめっきりと秋らしくなりました。特に今朝は肌寒さを感じるような感じであります。また日も随分と短くなりました。過ごしやすい秋を迎えることになりましたけれども、秋は短くて、すぐ冬がくるのかなと、そんなことも思っているところであります。

昨日、東京で行われておきました世界陸上が閉幕をしました。東京オリンピックのために建設をされた競技場でありますけれども、残念ながらオリンピックのときには無観客ということでありましたけれども、世界陸上では連日約6万8,000人もの観客の方が入っているということで大盛況であったと思っております。私は特に陸上競技を専門的にやったことも何もないんですけども、見るのが結構好きで、なぜかと考えてみると、早く走るとか、高く飛ぶとか、遠くへ飛ぶ、遠くへ投げるといった、要は結果が分かりやすいということなので、余計に感動するのかなということも思っています。数々のドラマが繰り広げられました。スポーツのすばらしさというものを改めて感じたところであります。

それから、今日は国の動きですけれども、自民党の総裁選挙の告示ということでありまして、5人が立候補するというように言われておりますけれども、行政として一番気になるのは、物価高対策がどうなるのかということをすごく気にしております。給付金というのはどうも最近あまり言われなくなつたという中で、ここでいろいろ話が出てるのは給付つき税額控除であつたり、年収の壁の引上げであつたり、時限的な所得税の定率減税ということ

も言われたり、またそれこそ数兆円規模の臨時交付金といったことも言われております。これから決まつたら決まつたで複雑な制度設計もあるんだろうと思いますけれども、市町村とすれば、市町村に恐らく下りてくるんだろうと思ってますので、速やかに動けるようにしっかりと情報収集をしていきたいと思っております。

本日は、予算決算委員会を開催いただきました。御多用の中、お繰り合わせ御出席をいただきまして大変ありがとうございます。

この委員会に付託されております案件でございますが、3件の補正予算、13会計の決算ということになっております。どうか慎重に御審議をお願いしたいと思います。今日から2日間どうぞよろしくお願ひいたします。

〈議長挨拶〉

〈議案第65号 令和7年度井原市一般会計補正予算（第4号）〉

〈歳入全般〉

〈なし〉

〈歳出第15款 総務費〉

〈なし〉

〈歳出第20款 民生費〉

〈なし〉

〈歳出第35款 農林水産業費〉

〈なし〉

〈歳出第40款 商工費〉

〈なし〉

〈歳出第45款 土木費〉

委員（荒木謙二君） 賑わい創出の用地測量等の業務委託についてお伺いをいたします。

約2万8,000平米、40筆の26人というふうな以前の全協で説明があったと思うんですが、用地の合意状況についてお尋ねをいたします。

また、取得予定の土地内に四角堂があると思うんですが、その四角堂の対応についてお伺いをいたします。

プロジェクト推進室長（岡田千穂君） 2点の御質問でございます。

1点目の用地の地権者の合意の状況でございますが、これまで令和6年11月と本年の7月、2回にわたりまして地権者の方を対象といたしまして、また相続登記ができない土地がございますが、そこは相続の代表の方を対象に説明会のほうを開催しております、事業に反対される方はいらっしゃらない状態でございます。

また、地権者を対象とした第3回目の説明会を10月中旬ぐらいで開催したいと今現在準備をしておりまして、今後のスケジュール等を説明するように考えております。

2点目の整備計画地の中央にお堂があるという御質問でございますが、御質問のとおりほぼ中央に官有地第3種としまして財務省の土地がございます。現在、岡山財務事務所の倉敷出張所のほうと協議を行っておりまして、市のほうが有償で払下げを受ける方向で調整を行っているところでございます。

以上でございます。

委員（荒木謙二君） それと、道の駅部分については県が負担というふうなことをお聞きしましたが、この土地の業務委託料等々については、最終的には県の補助金というのはいただけるようになるなんですか、それとも市の負担というふうなことになるんでしょうか。お尋ねをいたします。

プロジェクト推進室長（岡田千穂君） この道の駅、賑わい創出拠点のほうでございますが、岡山県と一体型で整備を行いますので、県のほうから負担がいただける形になっております。

ただ、今現在、どの部分が岡山県のほうが整備する部分ということが確定しておりませんので、また事業費は今後D B O事業者の提案によって決まってまいりますのでその負担割合というものは決まっておりませんが、岡山県に係る部分に関しては用地の測量業務委託につきましても負担をいただけるという形になっております。

以上でございます。

委員（西村慎次郎君） 委託料の今説明があった下ですが、アドバイザリー業務委託料についてです。

委託の名称としては、D B O事業者選定アドバイザリー業務委託という名称となっておりますけども、今までD B O方式が一番効率的というような説明はあったんですけども、最終的にD B O方式に決定された理由というのをまずお伺いします。

プロジェクト推進室長（岡田千穂君） D B O方式に決定した理由でございますが、まずこの事業の基本計画では、官民連携事業で実施した場合の市の財政負担の比較を行っております。その結果でD B O方式が最も市の財政負担が低いと、削減を図れるという結果が出ておりました。

また、最終的にはこの事業に関心のある、また事業参入を検討されている民間事業者を対象といたしまして、参加の条件など意向を確認するサウンディング型市場調査というものを今年の7月と8月に実施を行いました。その結果で、事業手法について回答のあった会社が19社ございまして、そのうち17社がD B O方式が望ましいと、残りの2社につきましてもD B O方式もしくはP F I方式というような回答をいただいております。この結果をもちまして、D B O方式で実施することで事業参入の見込みがあるという判断をいたしました。

以上でございます。

委員（西村慎次郎君） あと、アドバイザリー業務というのは、あまりこういった予算をつけて、外部委託して調達というのはなかなかないケースかなということですけど、今回アドバイザリー業務という委託が必要だというふうに判断された理由についてお伺いいたします。

プロジェクト推進室長（岡田千穂君） アドバイザリーが必要かという御質問でございますが、アドバイザリー業務の内容につきましては、補正予算資料の事業別個表にどういった内容をやるかということを記載させていただいておりますが、主なものといたしまして、事業者の募集に当たりまして、事業自体の実施方針、また施設の整備やサービス内容を示す要求水準書案や契約書案といったものの作成の支援をいただくといったものになっております。

D B O方式などの官民連携事業では、従来の公設公営方式と違いまして、契約条件やリスク分担などの検討、専門的な知識が必要になります。また、事業自体の実施方針の作成などの技術的、制度的な専門知識も必要ということでございます。特に、官民連携事業になりますと、設計変更のリスクや工期の遅延、その他経営の悪化など、様々なリスクが存在しております。こういったリスクを行政と民間事業者でいかに適切に分担するかといったことが必要になってまいりまして、事業そのもの、また事業者の募集にも影響、左右するといった

ものになりますので、官民連携事業にこれまでアドバイザリー業務としてそういう知見を持たれているところ、また支援実績を有するこういった外部の専門事業者を活用することが最も適切で確実にこの事業が実施できるということで、この業務は必要ということで考えております。

委員（西村慎次郎君） 最後、もう一点、先ほどD B O方式を採用した理由の一つとして、コスト的に安いということで挙げられたんですけども、今回のアドバイザリー業務というのは総予算が27億円ぐらいありましたけども、その中に含まれている費用でコスト比較の中に入ってる2,200万円という理解でいいですか。

プロジェクト推進室長（岡田千穂君） そのとおりでございます。

委員（多賀信祥君） まず、D B O方式ということで御説明をずっとしていただいております。私が委員会前に伺ったところで心配すること、指定管理料が発生したときというのをお話ししたと思うんですけど、それについて改めて再度聞きたいんですが、指定管理料については想定されてない、現時点ではということでよろしいでしょうか。

プロジェクト推進室長（岡田千穂君） 指定管理料でございますが、こちらもサウンディングの調査の中で確認を取っております。多くの事業者さんがサウンディングに参加されたということで、様々な御意見がございました。今現在で指定管理料というものは考えておりませんが、アドバイザリー業務の中でいかに適切に設定するかということも事業者さんにもかなり影響してまいりところでございますので、今現在は指定管理料というものは考えておりませんが、アドバイザリー業務の中でしっかりと検討してまいりたいと考えております。

委員（多賀信祥君） まず、専門的な方の知見を生かすというか、そういう業者の方に入ってきていただくというのはいいことだと思うんですけど。行政側の主体性というのが薄れてしまって、そちらの言いなりになるんじゃないかという心配も少ししてます。例えば指定管理料は極力ゼロに近い形というリクエストなんかをした上でアドバイスをいただくとか、そういう考えはありませんか。

プロジェクト推進室長（岡田千穂君） アドバイザリーのほうには、知見をいただくというスタンスを取っております。当然、市のほうとしましても、事業を行っていただくことによって幾らか収益とかを市のほうに歳入できるような形というのが一番望ましいと考えております。

以上でございます。

委員（多賀信祥君） アドバイスをいただいて、今度は委託業者と契約を結ぶタイミングというのは、これは指定管理料を含めてどのタイミングになるんでしょうか。工事発注のときでどうか。

プロジェクト推進室長（岡田千穂君） 今考えている内容でお答えをいたします。

最終的なD B O事業者の決定というのは、予定でいきますと令和9年3月ぐらいを想定しております。そのときには、基本契約という契約を交わします。その中には、例えば設計とか工事、運営管理というものを含む契約になってまいりますので、その時点では運営の部分、指定管理料を含めた考え方の運営の委託の契約も交わすというか、提示する形になります。実際に運営の委託の契約を交わすタイミングというのは、工事が完了する前ぐらいになるのではないかと考えております。

委員（多賀信祥君） 指定管理期間は、今どれぐらいで思われていますか。

プロジェクト推進室長（岡田千穂君） これも最終的にはアドバイザリーの知見をいただこうと考えておりますが、サウンディングの結果も踏まえまして、今、井原市では15年程度が望ましいのではないかと考えております。

〈なし〉

〈歳出第55款 教育費〉

〈なし〉

〈一般会計補正予算全般についての質疑〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第66号 令和7年度井原市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）〉

委員（上野安是君） 令和6年度収支のほうがマイナス217万9,000円になったんですが、7年度以降はどのように想定をされてますか。

市民課長（藤田昌巳君） 7年度以降の収支予定なんですけれども、7年度は人口減に伴う患者数の減で、指定管理者のほうからは7年度もマイナス300万円程度の赤字になると見込まれておられます。

以上です。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第67号 令和7年度井原市介護保険事業特別会計補正予算（第1号）〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈認定第1号 令和6年度井原市一般会計歳入歳出決算〉

〈歳入第5款 市税から第50款 使用料及び手数料〉

委員（大滝文則君） 住宅使用料ですけども、前年より悪化しておるような数値になっておると思うんですけども、その要因についてお示しいただきたいと思います。

財政課長（西本晴雄君） 住宅使用料の主な収入未済額の理由ですけれども、一時的な資金不足や生活困窮が主なものとなっております。

ただ、傾向としては、令和5年度、令和6年度、理由によっての大きな違いというのをごいません。

収入未済額579万3,351円ですけれども、8月末の時点でそのうち17人は完納となっています。

以上ですよろしくお願ひします。

委員（大滝文則君） 大体分かりました。調定額が減少している中で収入未済額が増加しているということになっておりますので、井原市の住宅を使用される方も減少しておると、そういう中で先ほど言いましたように収入未済額が増加しとるということで、根本的な住宅を借りとる市民の状況が以前と変わってきておるんじゃないかということがこの数字で推測されるので、今後についてもそういう対応をしっかりとしないかないと、今後も悪化していくんではなかろうかという予測をするわけですが、そのあたりはどのような予測をされて運営されているでしょうか。

財政課長（西本晴雄君） 主な理由としまして一時的な資金不足や生活困窮が主なものとなっているんですけれども、入居される方の生活状況など、丁寧に相談などを受けながらしっかりと使用料のほうを皆さんに公平に負担していただけるように努力してまいりたいと思います。

委員（大滝文則君） その件と2点先ほど言いましたように、調定額が減少しとるということは、空き部屋が増えとるんじゃないかと単純に想像しとるんです。そのあたりの対策についても今お尋ねしたんです、言いようが悪かったんですけども。現状、井原市の公営住宅の空き家率というのは、前年と今年を比較した場合、どういうふうになつとるか分かるでしょうか。

財政課長（西本晴雄君） 市営住宅の入居率なんですけれども、令和5年度が約74.2%です。令和6年度が、これが71.2%と、約3ポイント減少していっている状況でございます。

委員（大滝文則君） そうではなかろうかなと予測して質問したんですけども。要するに入居率が低下する中で収入未済額が増えとる現状をどこに根本的に問題があるということもしっかりと分析しながら、より健全な運営ができるように行っていただきたいと申し添えて終わります。

〈なし〉

〈歳入第55款 国庫支出金から第60款 県支出金〉

〈なし〉

〈歳入第65款財産収入から第90款 市債〉

〈なし〉

〈歳入全般〉

〈なし〉

〈歳出第10款 議会費〉

〈なし〉

〈歳出第15款 総務費〉

委員（妹尾文彦君） 129ページのシティプロモーション事業についてお伺いしたいんですが。井原市キャンペーンがあったと思いますが、これはどれぐらい売上げが上がったり、件数があつたりしたんでしょうか、お伺いいたします。

企画振興課長（片山直紀君） 井原市キャンペーンについての御質問ですが、延べで29店舗が参加されまして、44種類の独自の丼を創作していただいて展開をしてまいりました。その結果、2万9, 161杯、2, 782万6, 510円の売上げにつながっております。

委員（妹尾文彦君） 2万9, 000杯と2, 780万円ぐらいの売上げがあったということですね。

それで、LINEのアカウントとかインスタのフォロワーについてなんですが、前年度よりどれぐらい増えたのかを教えていただけますか。

企画振興課長（片山直紀君） 上昇率ということでは数字を持ち合わせておりませんが、シティプロモーション事業を3年間展開してまいりました。その結果といたしましては、LINEのアカウント「#イバ活」という取組をやってきたわけですけれども、それにつきましてはともだちの数が2, 397人になっております。

もう一点、インスタグラム「イバラグラム」のほうのフォロワー数でございますが、これは4, 130人という数字になっております。

委員（妹尾文彦君） 別件でもう一つお伺いしたいんですけど、今と同じページ、企業版ふるさと納税マッチング支援業務の委託料のところなんですか。20件あったあるんですが、全部でこのマッチングで行われた件数、マッチングで増えた件数は何件あったんでしょうか。

企画振興課長（片山直紀君） マッチング支援業務でいただいた寄附の件数ですが、12件となっております。金額にしますと、300万円ということになっております。

委員（宮地俊則君） 127ページの情報化推進費委託料で1億円余りの不用額を説明いただいたんですけど、もう一度お願いできますでしょうか。

総合政策部参与（岩本展到君） 自治体情報システムの標準化・共通化対応業務のスケジュールがベンダー側の都合で大幅に見直されまして、令和6年度に予定していた業務が大幅に縮小しまして、もともと標準化・共通化対応の業務に9,000万円ぐらいの予算を取つてあったわけなんですが、480万円ほどの支出となったということが主な要因でございます。

委員（宮地俊則君） これは、今後のこととしてこの1億円余りというのはもう要らないと、不用額ですからもう要らないということでよろしいですか。

総合政策部参与（岩本展到君） 令和6年度にやる予定だったものが、今年度、7年度以降に繰り越されたということで、決してやらないというわけではなくて、スケジュールが1年後ろにずれたという結果となっております。

以上です。

委員（松本周平君） 129ページの委託料について質問いたします。出会いと交流の場づくり事業委託料というこちらの項目なんですか。こちらの委託内容についてお伺いします。これは再委託が可能なものですか。

企画振興課長（片山直紀君） 出会いと交流の場づくりの委託料につきましては、市民13名で構成しております出会いと交流の場づくり実行委員会というところに委託をしております。その中で、若者たちの出会い、交流というものを創出していくための取組をする中の再委託は認めている状況です。

委員（松本周平君） 再質問になるんですけども、こちらは目標の設定等をされてはいるんですけども、アンケートのような軽い数字の結果しか出ていなくて、このままじゃよろしくないんじゃないかなというところがあるんですけども、その辺どういうふうにお考えですか。明確なKPI等が設定されていないように見えるんですが、その点、今後改善の余地はありますか。

企画振興課長（片山直紀君） この取組そのものが、もともと結婚推進、婚活といった意

味合いでこれまで取り組んできていたんですけども、婚活というくくりで事業をしていきますと、参加者が限られてくる、少なくなっていくということで事業効果が見られなかつたことから、コロナ禍で若者のそういった交流が少なくなってきたことを支援して郷土愛につながっていけばいいな、結婚という副産物のようなものができたらいいなというようなイメージでスタートしている中で、K P I という考え方は現段階では持ち合わせておりませんが、現在取り組んでくれている市内の若者 13 名が今後何かこういう目標を具体的にもっとやろうということであれば、一緒に研究してまいりたいと思います。

委員（松本周平君） 最後に聞きしたいんですけども、どういった経緯でこれは始まったのかということです。簡潔にお答えいただけたらと思います。

企画振興課長（片山直紀君） 始まった経緯ということですが、先ほど言いましたが、もともとは結婚推進の取組でやっていた事業を、結婚よりももっと前の段階、出会いというところにスポットを当てた取組ということで開始をいたしました。

委員（松本周平君） 誰スタートですか。どこスタートですか。

企画振興課長（片山直紀君） 市が検討する中で青年会議所とか商工会青年部とか、そういったところと話をする中で生まれた事業になっております。

委員（多賀信祥君） 127 ページの一番下、ふるさと納税返礼品代、これが昨年の決算だとふるさとサポーター謝礼という表記と、これ全く同じでいいんですか。

企画振興課長（片山直紀君） 同じものです。

委員（多賀信祥君） 寄附額が増えてるのに、この額が前年を下回っているように思うんですけど。サービスが出たのか、その辺の、かなり結構額が違うと思うんですけど。

企画振興課長（片山直紀君） 御寄附の関係ですので、傾向というのはなかなか見にくいくらいはあるんですけども、想定からすると 1 万 8,000 件ぐらいをイメージしていたんですが、結果、1 万 6,000 件の寄附件数であったというところ、単価が若干下がったのかなというところも考えております。

委員（多賀信祥君） 寄附額が 5,000 万円ぐらい増えてるんです。それで、返礼品代が 1,000 万円ぐらい 6 年のが少ないんです。その要因というのは、それを伺いたいんです。

企画振興課長（片山直紀君） 国の方針で経費率が 50 % を超えてはいけないと、総額で 50 % を超えてはいけないということが令和 5 年 10 月からスタートしております。そうした中で、従来 3 割の返礼率であったものが、それでは総額で 50 % を超えていくおそれがありましたので、27 %、26 %、25 % といった具合に返礼率が下がっているということは影響していると考えております。

〈なし〉

〈歳出第20款 民生費〉

〈なし〉

〈歳出第25款 衛生費〉

委員（多賀信祥君） 176ページの下から3分の1ぐらいの負担金補助及び交付金のがん患者ウィッグ等購入費用助成金ですが、これはたしかここから始まったと思ってるんですが、利用された方の感想とかこれから今後の見込みとか、利用者が増えるとか、そういうことが分析ができていればお願いします。

健康医療課長（西本訓子君） がん患者ウィッグ等購入費の助成金でのお尋ねなんですが、まず感想については今把握はできていませんが、利用件数については12件、令和6年度にございました。

今後についてになりますが、こちらについては令和6年度の実績が見込みより申請件数のほうが多いといったこともございますので、引き続き周知のほうに努めていきたいと考えております。

委員（沖久教人君） 185ページの塵芥処理費の需用費の中の先ほど出ました印刷製本費です。印刷製本費が772万6,400円、昨年が1,148万3,285円と、かなり減っているんですけど、何か理由等がありましたらお聞かせください。

市民生活部次長（朝原博幸君） 前年まではコロナとかのいろいろな影響がありまして、あと印刷がなかなか業者の納品が間に合わないようなことも想定されましたので、多めに印刷を刷っておりました。前年の枚数がたくさん残ってましたので、昨年度は少なく刷ったというようなことでございます。

委員（山田幾久枝君） 179ページのところの産後ママ安心ケア委託料ですが、これは具体的に何か所の施設にどれくらいの委託料でお願いされているものですか。

健康医療課長（西本訓子君） まず、こちらの事業が宿泊型ケアと日帰り型ケア、母乳相談というのがございまして、まず宿泊型ケアについては2つの助産院で10件の御利用がありました。日帰り型ケアについては4施設の御利用がありまして、件数は16件です。母乳相談につきましては、3施設の御利用がありまして、計95件の御利用がありました。

以上です。

委員（山田幾久枝君） 委託先なんですけれども、見ますと、病院が岡山市とか吉備中央町、総社とか、いろいろと遠方の病院などが多いような気がいたしまして、実際にはもっと利用したいけれども利用しづらいというふうなこともあるのかなと思いまして、その辺も含めて今後御検討いただければと思ってますが。この利用の件数は想定の件数ぐらいなんでしょうか、もっとたくさんを想定していらっしゃったんでしょうか。

健康医療課長（西本訓子君） 昨年度と事業規模としてはあまり変わりがありませんので、想定内というところです。

〈歳出第30款 労働費〉

〈なし〉

〈歳出第35款 農林水産業費〉

〈なし〉

〈歳出第40款 商工費〉

委員（大滝文則君） 204ページからの観光費についてお尋ねいたします。

かなりの予算を組んで井原市をアピールし、観光客の誘致ということで予算を組んでいるところでございますけれども、令和5年度から6年にかけての推移、どの程度観光施設ごとに観光客の入り込み客があったのか集計をされていると思うんですけども、その集計数値をお示しいただきたいと思います。

観光交流課長（藤岡健二君） 観光入り込み客数の数値でございます。

まず、コロナがあって、令和4年度のときは25万6,000人ほどに減少しておりました入り込み客数つきましては、令和5年度に約39万に回復したところであります。令和6年度につきましては微増になるんですけども、40万人をちょっと超えたあたりの数値になっております。

その中で特に伸びているところといいますと、美星の天文台、令和5年度が1万8,400人だった数値が、令和6年度は2万2,000人超えるということで、4,000人ほど増えております。これは天候等にもよりますので一概には言えませんけれども、1つはガン

ダムマンホール等を設置してそれのマンホールカードを求めたりとか、あるいは美星町観光協会がされたスタンプラリー等の効果も押し上げにつながっているのではないかと思っております。

そのほか、経ヶ丸グリーンパークにつきましては、キャンプブームではあったわけなんですがれども、夏の猛暑等の影響もあって、回復はしつつあるんですけれども、キャンプのほうは落ち着いているということで、トータル人数については微増というところになっております。そのほかについては、ほぼもう横ばいというところでございます。

以上です。

委員（大滝文則君） 先般、美星でピオーネまつりを行ったとき、前年対比で相当減少しとるという話も聞きました。予算を組んでいろいろ御努力されているところでありますけども、先ほど言ったように微増で全体的には効果がなかなか現れてないと思われるんですけども。今後、予算を執行するに当たっては、効果があるものにしていただきたいということを申し添えておきます。

インバウンドについてもいろいろ言われてますけども、実際、私も市内で外国人観光客を見た、そういう景色を見たことがないんですけども、インバウンドについてはどのように把握されているでしょうか。お尋ねいたします。

観光交流課長（藤岡健二君） インバウンドにつきましては、実際岡山県全体にも言えるんですけども、主に集中しているところが岡山市内、倉敷市内、その2つがメインであります。1本中に入って井原鉄道となると、実際把握というか、実際訪れておられる方も少ないところではあるんですが。これは聞いた話、聞き取りなんですけれども、美星のほうの美星天文台であるとかペンションコメット、岡山空港を台湾の方とかは実際にレンタカーをほぼ借りますので、遠方へも行けるということで、中国語が美星のほうで飛び交いつつあるというところは聞いておりますので、数のほうは把握はできていませんけども、少なからず動きが出ていると。

あと、観光につきましては、井原市だけで呼ぶというのではなくて、例えば井原線沿線観光連盟であるとか高梁川流域備後圏域ということで、主には台湾をターゲットに、あるいは欧米、広島県は欧米が多いんで、それを引っ張っていくということで、広域での取組につなげていこうという考え方でございます。

以上です。

委員（大滝文則君） いろいろ理由はあるでしょうけども、井原市で予算を組むわけですから、井原市に効果がある結果を期待したいと思いますし、今後もされるんだったら、そういうことも視野に入れて今後の活動をしていただきたいと思います。

終わります。

委員（松本周平君） 203ページの商工振興費の中の福山ビジネスサポートセンター負担金に付随して質問させていただきます。

今現在、こちらの負担金に対して井原市域における被サポート者数について把握がございましたら数字をお答えください。お願ひします。

商工課長（亀田博行君） 福山ビジネスサポートセンター負担金なんですけども、市内事業者が利用した回数に応じて市が負担をするものというルールで行っております。相談回数1件につき1万円を負担するということで、利用の実人数というのは把握を今できておりませんけども、令和6年度の事業実績、相談回数ですと、30回ということが実績でございます。

以上です。

委員（松本周平君） 引き続きそのあたりもしっかりと注視していってほしいなと思っておりまして。できれば、その中でも起業が何件だったりとか、事業継続が何件あるかといったところもまた今後お聞かせいただくような機会があると思います。

あと、井原はそういったところに付随して転入の支援補助だったりとか、あと開業に関する支援補助というのも充実してますので、しっかりとビジネスサポートセンターのほうとも連携して、できれば井原でどんどん開業していただける方向に取り組んでいただけたらなと思います。引き続きよろしくお願ひします。

以上です。

委員（沖久教人君） 207ページの観光協会補助金347万円について、具体的にこれはどういうことなのか教えてください。

観光交流課長（藤岡健二君） 観光協会の補助金347万円についてでございます。

井原市観光協会へのまず補助金としまして、運営する補助金が27万円、それと観光協会のほうが昨年度総合パンフレットをつくり替えました。それに係る分が200万円です。足して227万円。それから、美星町観光協会の運営補助に係る部分が120万円、合計で347万円という数字になっております。

以上です。

委員（沖久教人君） 昨年が147万円で200万円上がってると思うんですけども、昨年とはやることが違っているというような認識でよろしかったでしょうか。

観光交流課長（藤岡健二君） 総合パンフレットをつくり替えるというところで、その制作費用に係る補助部分200万円が追加されて、臨時で行ったということになります。

以上です。

〈なし〉

〈歳出第45款 土木費〉

〈なし〉

〈歳出第50款 消防費〉

〈なし〉

委員長（惣台己吉君） 本日はこれをもって終了いたします。